

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成29年 月 日

協議会名: 津山市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

補助対象事業者等	事業概要	前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	事業実施の適切性	目標・効果達成状況	事業の今後の改善点(特記事項を含む)
中鉄北部バス(株)	加茂支所線 (イオン津山店前～めぐみ荘)	循環線だけでなく、接続する幹線路線やその他枝線についても、乗降調査などを実施し、乗り継ぎの状況や、利用目的と動態調査を行い、利用者ニーズの把握にあたっている。	A ・計画通り事業は適切に実施された。 ・要望や利用・運行状況を踏まえ必要に応じた改善をはかっている。	B 目標については、H27年度利用実績138,189人に対しH28年度実績は137,063となり、目標に対して、1,126人減(99.1%)となり、微減となり、前年比2%増は達成できなかった。 津山東循環線、加茂支所線、勝北支所線・(奥津川)勝北支所線ではそれぞれ1,360人、673人、1,039人の減少となる一方、小循環線、津山西循環線、マルナカ西循環線においては、それぞれ683人、957人、306人の増となった。津山東循環線については、一時的利用減少は、替道運行によるものと想定されるためであり一時的な現象ととらえており、循環線系統については堅調と認識している。 支所線系統については、周辺部の人口減少や、平成27年年度の利便性向上のために実施した時刻変更が、ヘビーユーザーの利用形態とミスマッチであったための利用者減少であった。これら想定していなかった事項が起こったため、目標達成はできなかったものの、全体としては、利用は堅調であったと評価している。	平成28年度に、「津山市地域公共交通網形成計画」を策定中であり、計画に基づき、利用者や地域住民などの利用推進・利便性向上施策を実施していく。 また、平成29年4月には「津山駅北口広場」の整備に伴い、循環線バスの乗継拠点が移動するため、JRと各循環線バスのダイヤの整合を行い、乗継の向上による利用者増を目指していく。 加えて、引き続き幹線系統路線との乗継利便性向上の方策を検討していく。
	勝北支所線 (イオン津山店前～新野桜橋)		A ・計画通り事業は適切に実施された。 ・要望や利用・運行状況を踏まえ必要に応じた改善をはかっている。		
	(奥津川)勝北支所線 (イオン津山店前～奥津川)		A ・計画通り事業は適切に実施された。		
	津山東循環線 (津山～イオン津山店前～津山)		A ・計画通り事業は適切に実施された。 ・要望や利用・運行状況を踏まえ必要に応じた改善をはかっている。		
	小循環線 (津山～鉄砲町～津山)		A ・計画通り事業は適切に実施された。 ・要望や利用・運行状況を踏まえ必要に応じた改善をはかっている。		
	津山西循環線 (津山～マルナカ院庄店～津山)		A ・計画通り事業は適切に実施された。 ・要望や利用・運行状況を踏まえ必要に応じた改善をはかっている。		
	マルナカ西循環線 (マルナカ院庄店～津山～マルナカ院庄店)		A ・計画どおり事業は適切に実施された。 市民からの要望や利用・運行状況を踏まえ必要に応じた改善を図っている。		

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成29年 月 日

協議会名: 津山市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

補助対象事業者等	事業概要	前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	事業実施の適切性	目標・効果達成状況	事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
特定非営利活動法人エコビレッジあば	阿波区域	地域だよりや阿波地域協議会等にも働きかけを行い、利用促進・啓発している。	A ・計画どおり事業は適切に実施された。	A H27年度利用実績583人に対し、H28年度は860人(277人増、前年比147.5%となり、大幅に目標を上回ることができた。	今後も地域だよりをはじめとした利用促進・啓発等を推進し、より一層の環境整備を行う。利用者が不満と感じている点(区域や待機時間)や今後期待するサービス等について調査・検討を実施する。 一方で運転手の高齢化が進んでいる、特定の運転手への依頼が多いなどの問題が生じており、今後の課題として研究・改善が必要である。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成 年 月 日

協議会名:	津山市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本市は岡山県北東部に位置し、人口103,939人(平成28年1月1日)、総面積506.33km²で、県内第3の人口規模である。平成17年に旧加茂町、旧阿波村、旧勝北町、旧久米町と合併し、美作地域の中心都市としての役割を担っている。</p> <p>地勢としては、岡山三大河川の吉井川が貫流する市内中心部の盆地を囲むように、中国山地、吉備高原に接しており、林野面積は342.57m²で総面積の60%以上を占めている。</p> <p>人口構成としては、65才以上人口は29,619人と人口の28.5%を占め、少子高齢化、人口減少が進んでいる。</p> <p>平成22年3月に「津山市地域公共交通総合連携計画」を策定し、再編実施等を行い、一定の成果を得たところであるが、公共交通を取り巻く環境は大変厳しく、事業者収支も逼迫し、行政からの補助がなければ維持できない状況である。こうした中、平成28年度に「津山市地域公共交通網形成計画」を策定し、新たな公共交通体系の確立を目指す中で、乗り継ぎ拠点での幹線路線とフィーダー系統路線の結合等による効率的な運行を実施し、将来的にも継続可能な公共交通を維持していく。</p>

平成28年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 津山市地域公共交通会議 生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統)の概要



津山市の概要

- ・平成17年2月に1市3町1村が合併
- ・人口 106,778人(平成22年度国勢調査)
- ・面積 506.36km²

津山市地域公共交通協議会の構成員

学識経験者、地域住民の代表、中鉄北部バス(株)、JR西日本、岡山県タクシー協会津山支部、事業者労組、津山警察署、津山市、岡山県、岡山運輸支局

概要

津山市では、不採算路線における路線バスの廃止の可能性の増大、市町村合併前に旧市町村がそれぞれ独自に行っていた路線の混在とそれに伴う不均衡、周辺市町村からの多数の乗り入れによる路線のわかりにくさ、また、住民ニーズの多様化に伴うコミュニティバスの運行委託による自治体の負担増大など様々な問題が平行して混在していた。

これらの問題を改善すべく、平成22年3月に「津山市地域公共交通総合連携計画」を策定した。この連携計画は、競合路線の整理、格差の是正により効率的な公共交通体系に再編を行い、合わせて公共交通の利便性を向上させ利用を促進することで、維持継続出来る地域公共交通体系づくりを目的としている。利用者が減少する中で、事業者の収支も逼迫し、行政からの補助がなければ維持できない状況となっている。こうした中で、将来的にも継続可能な公共交通体を維持していくために、地域内フィーダー系統確保維持事業を活用した市内の地域公共交通の維持継続に取り組んだ。

平成22年10月に加茂支所線、勝北支所線、(奥津川)勝北支所線、東循環線、平成23年12月から小循環線、平成24年10月から阿波過疎地有償運送の運行を開始し、平成25年4月には西循環線、東循環線等の改正を実施。引き続き地域の状況を把握しながら実施内容の評価検証を実施し、改善すべきものは改善しながら、利用しやすい交通体系を進めている。

また、現在策定中の「津山地域公共交通網形成計画においても、地域内フィーダー路線の運行維持と利用の促進を、引き続き進めていく。

協議会の主な取り組み

- ・効率的運行体系構築、競合路線の解消等
- ・公共交通結節点における停留所整備
- ・わかりやすい情報案内(バスマップ)の提供
- ・交通空白地へのフィーダー交通の導入
- ・利用者の意見に基づく経路変更

協議会における検討

協議会の開催状況 (合計10回)

- ・平成27年10月7日開催 生活交通確保維持改善計画(H28~30)の路線変更、時刻改正等協議
- ・平成27年12月9日開催 平成27年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価を協議(書面協議)
- ・平成28年1月12日開催 阿波交通空白地有償運送の待機料金協議
- ・平成28年2月23日開催 勝北地域巡回バス受託者変更を協議(書面審議)
- ・平成28年6月30日開催 生活交通確保維持改善計画(H29~31)を協議
- ・平成28年12月15日開催 平成28年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価を協議

その他に期間中「網形成計画」策定に係る協議を4回実施

定量的な目標・効果

全域

- (目標)・中鉄北部バス株式会社によるフィーダー路線(系統(1)~(7))について、H28路線利用者2%増(H27対比)
- ・特定非営利企業エコビレッジあば運行路線(系統(8))について、H28路線利用者2%増(H27対比)
- (効果)・当該路線を維持することにより公共交通空白地域を解消し、高齢者等の日常生活に必要な移動手段が確保される。
- また、路線バスと連携することにより、広域的な移動利便性が向上する。
- ・通学手段が確保されることにより、父兄等における送迎の負担軽減及び自動車利用の抑制が図る。

昨年度の自己評価に対するフォローアップ

循環線だけでなく、接続する幹線路線やその他枝線についても、乗降調査などを実施し、乗り継ぎの状況や、利用目的と動態調査を行い、利用者ニーズの把握にあっている。

昨年度の運輸局二次評価に対するフォローアップ

さらなる接続の改善、利用促進に向けて、循環線だけでなく、接続する幹線路線やその他枝線についても、乗降調査も行い、他の循環系統との乗り継ぎのニーズなど広域的な実態を検証しているところである。

実施した利用促進策

親子エコフェスタ事業において、バスについての周知コーナーを出展し、循環路線の無料乗車体験を実施や他出展企業との連携検討等を行った。
平成29年度には、津山駅北口広場整備に伴い、JRとバスの乗継を考慮した、時刻改正を予定

地域住民の意見の反映

- ・平成27年度生活交通確保維持改善計画期間中の地元自治会や利用者からの要望に対し、加茂支所線、勝北支所線のバス停見直し、時刻表改正を行った(H27.12.1改正)
- ・平成27年10月から開始の、「津山市バス利便性向上及び利用促進事業」中で、東循環線車内、バス停等において利用ニーズの聞き取り調査を実施。
- ・平成28年度策定予定の「網形成計画」における、市民アンケート、ヒアリング内容についても反映させる予定。

事業実施の適切性

- ・阿波過疎地有償運送の実施により、交通空白地域の利便性の向上が図られ、予想を上回る乗車実績で引き続き推移している。
- ・東循環線は、再編により利用者増加の傾向で推移していたが、今回は減少傾向に転じた。替え道運行によるものが原因と推察されるが、より詳細に原因を究明し利用増につなげる。
必要がある。また、当線は交通量も多く、渋滞による時刻の遅れが発生している。
- ・加茂支所線、勝北支所線、同(奥津川)線は、要望・運行状況を踏まえ、さらなる改善を図っているが、路線区域の人口減少の影響が大きい。
- ・小循環線は、旧市内中心部の交通空白地を運行しているが、道路環境により片回りで複雑な路線形態となっており、一定の新たな需要を取り込んでいる。
- ・西循環線、マルナカ西循環線は、西地区の基幹となる路線で、久米地域からの接続路線である。利用者へも路線内容が浸透し、利用者も好調に増加している。

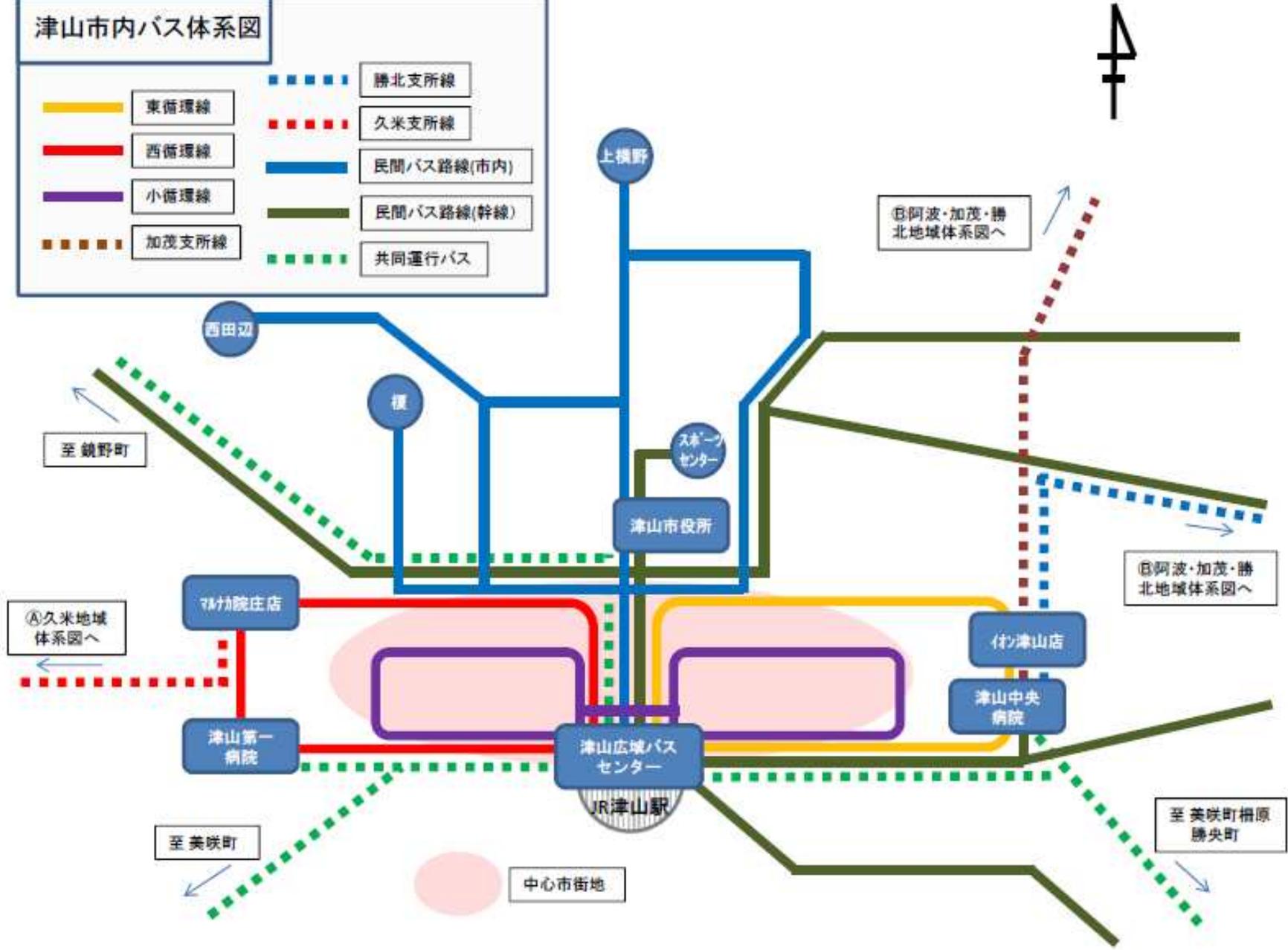
目標・効果達成状況

- ・ごんごバス路線の目標については、H27年度利用実績138,189人に対しH28年度実績は137,063となり、目標に対して、1,126人減(99.1%)となり、微減となり、前年比2%増は達成できなかった。
- ・加茂支所線、勝北支所線・(奥津川)勝北支所線、津山東循環線ではそれぞれ673人、1,039人、1,360人の減少となる一方、津山西循環線、マルナカ西循環線、小循環線、においては、それぞれ867人、306人、683人の増となった。津山東循環線については、一時的利用減少(替え道運行によるもの)が原因により減少となったが、循環線系統については堅調である。支所線系統については、周辺部の人口減少の中で、利用者の要望に応じたバス停変更などにより、減少率を食い止めたものと評価している。
- ・阿波過疎地有償運送については、H27年度利用実績583人に対し、H28年度は860人(277人増、前年比147.5%)となり、大幅に目標を上回ることができた。地域だよりや阿波地域協議会等にも働きかけにより、利用促進がすすんだ結果と評価している。

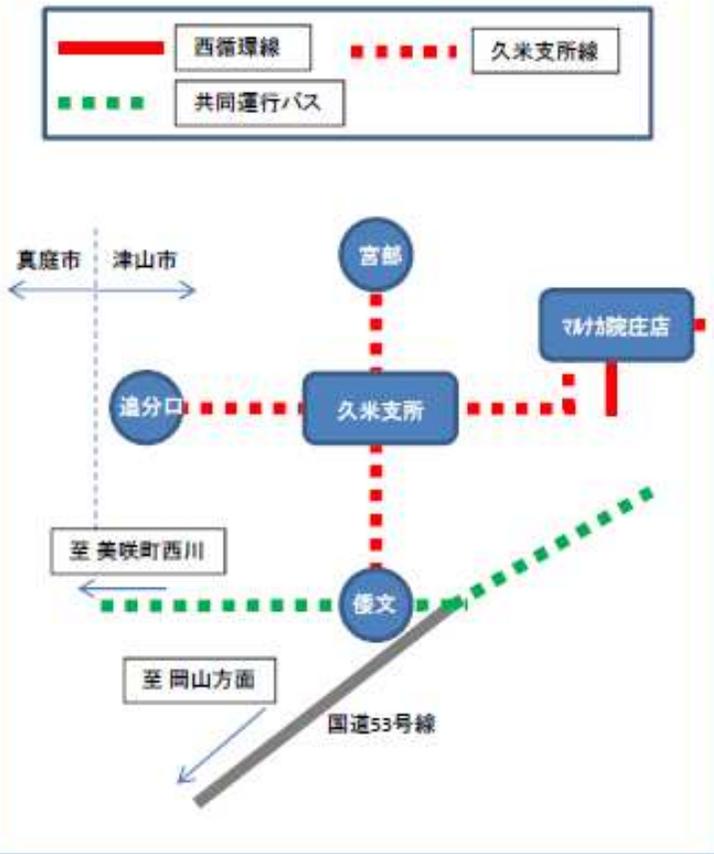
事業の今後の改善点

- ・平成28年度に、「津山市地域公共交通網形成計画」を策定中であり、計画に基づき、利用者や地域住民などの利用推進・利便性向上施策を実施していく。
- ・平成29年4月には「津山駅北口広場」の整備に伴い、循環線バスの乗継拠点が移動するため、JRと各循環線バスのダイヤの整合を行い、乗継の向上による利用者増を目指していく。
- ・その他として、引き続き利用者、沿線住民の意見や要望を踏まえ、また地域の状況も的確に把握しながら実施内容の評価・検証を実施し、改善すべきものは改善し、継続すべきものは継続することで計画をスパイラルアップさせ、利用しやすく、維持できる地域公共交通体系づくりを引き続き進めていく。

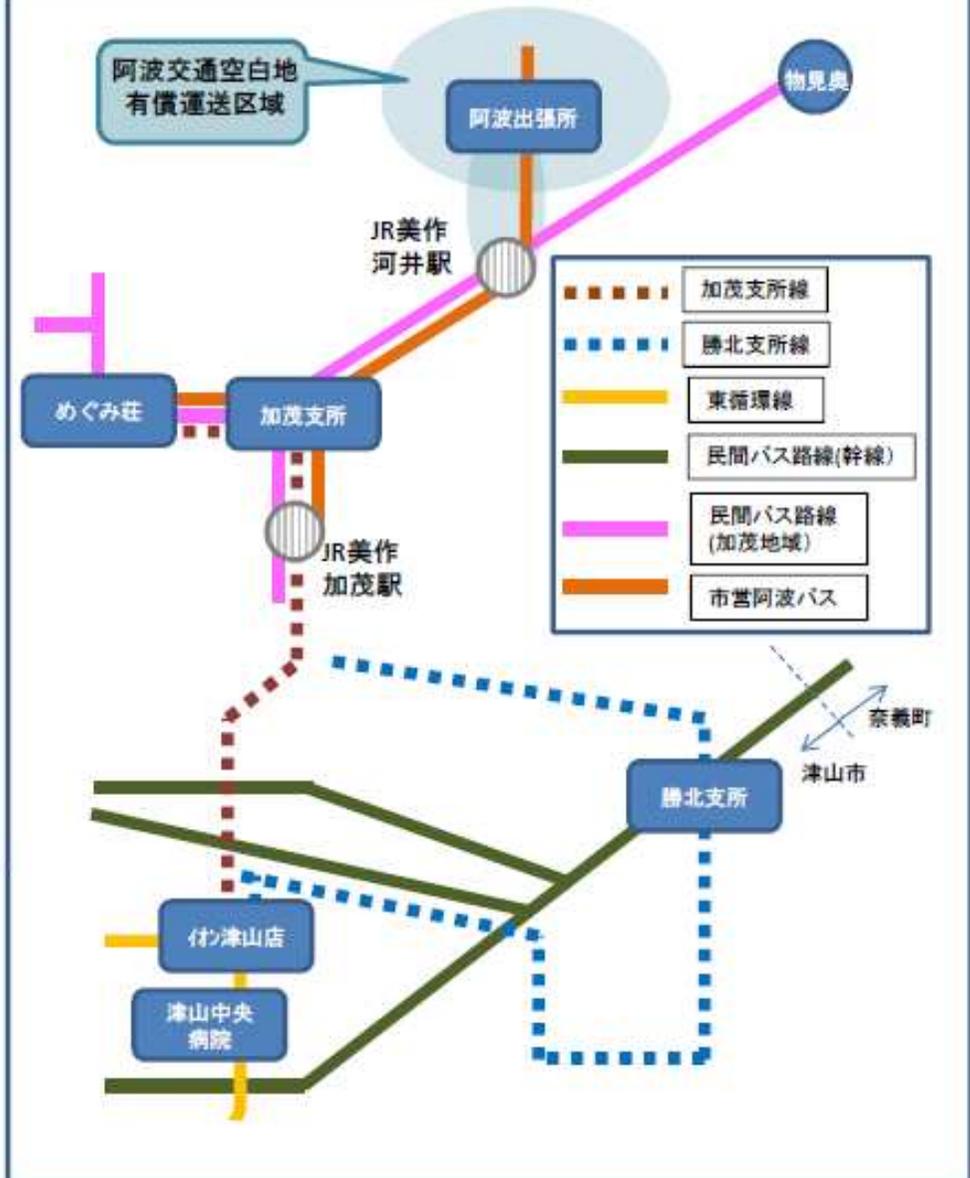
交通体系図 別紙



① 久米地域バス体系図



② 阿波・加茂・勝北地域バス体系図





〔運賃〕
阿波交通空白地有償運送は100円
それ以外はおとな200円、こども100円